

指標 9

都市交通基盤確保率

現状と課題

旧市街地での居住環境の悪化

幅員の狭い細街路が残る旧市街地内の密集市街地等では、通過交通の流入により、安全かつ安心な居住環境が脅かされており、都市内では、安全な歩行空間やたまりスペースの確保、沿道の緑化など、居住環境の向上が重要となっている。

また、地域の個性を活かした賑わいの創出に資するみちづくりが求められている。

自転車が走りにくい道路

また、都市内では、自歩道のない道路など、自転車が快適に走行できる環境が不十分であり、人家が連続している道路区間のうち、自転車が通行可能な歩道（幅員 2 m 以上）を有する道路は、全体の約 26% にすぎない。

景観の美しさを阻害する電線類

乱立する電柱は、美しい都市や街並みの景観を阻害するとともに、緊急の消防活動等の大きな障害となっている。



金沢市長町地内



自転車が走りにくい道路



(主)七尾輪島線 輪島市河井町地内



(主)金沢美川小松線 金沢市増泉地内

取組みの方向性

道路ネットワークの整備による細街路への通過交通の排除、歩行者や自転車が安全で快適に走行できる幅の広い自転車歩行者道の整備や沿道緑化、賑わいの創出、無電柱化等の推進を目指し、市街地における都市計画道路の整備を進めます。



目抜き通りの整備による地域の振興支援（山中町）



沿道の緑化や低騒音舗装などによる生活環境の保全
（国道 8 号 金沢市南新保地内）

取組みの成果指標

都市交通基盤確保率を示す指標として、都市計画区域居住人口 1 万人あたりの都市計画道路の整備済み延長を採用しました。

$$\text{都市交通基盤確保率} = \frac{\text{都市計画道路の整備済み延長}}{\text{都市計画区域居住人口}}$$

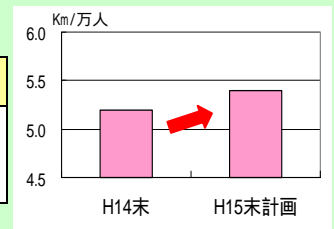
* 対象路線：都市計画道路（国道、県道、市町道）

* 目標値 = (都市計画道路総延長約 1,068km) ÷ (H14 末現在の都市計画区域居住人口約 103 万人)
= 10.3km / 万人

都市交通基盤確保に向けた平成 15 年度の成果目標

都市交通基盤確保率を H14 末で約 5.2km / 万人から H15 末には約 5.4km / 万人へ、約 0.2km / 万人増加させることを目指します

項目	H14 末	H15 末計画	増
都市交通基盤確保率 (整備進捗率)	約 5.2km / 万人 (約 50.4%)	約 5.4km / 万人 (約 52.3%)	約 0.2km / 万人 (約 1.9%)



H15 年度に供用を予定している主な箇所

路線名	都市名	延長
(都) 空港軽海線 (園町)	小松市	0.9km
(都) 窪野々市線	野々市町	1.0km
(都) 橋場若宮線 (芳斉町)	金沢市	0.4km
(都) 看護大学通り線 (高松北西部)	高松町	0.6km

まちづくり計画策定地区数

建築協定や緑地協定をはじめとしたまちづくり協定やまちづくり計画の策定を進めることで、地域の個性を生かしたまちづくりを進めます。

項目	H14 末	H15 末計画	増
まちづくり計画策定地区数	142 地区	157 地区	15 地区

無電柱化の推進

電線および電柱をなくし、安全で快適な通行空間を確保するとともに、都市の景観、消防防災性の向上に寄与します。

項目	H14 末	H15 末計画	増
無電柱化延長	59.6km	64.2km	4.6km

